

<いのちに至る道案内> マタイの福音書 7章 15-23節

『狭い門から入りなさい。いのちに至る門は狭く、道は細い。そして、それを見出す人はわずかだから。』でも、どうして「いのちに至る道」を見つける人が少ないの？にせ預言者がたくさんいるから。しかしイエス様は、「偽物の言葉にだまされてはいけない」と呼び掛けておられる。

◆にせ預言者：羊の衣を着てあなたがたのところにやって来るが、内側は貪欲な狼。
マタイ 12:33-34、24:11、11:24、Ⅱペテロ 2:1、1ヨハネ 4:1、申命記 13:1-3、
エレミヤ 14:14、23:16

しかし問題は、ニセ預言者たちがどんな姿をしているか、ということにあるのではない。それより、私たちにそれを見分ける力、判断する鋭い感覚を持っているか、あるいは、見分けたいと思う思いがあるかどうかである。

=16節、20節『あなたがたは彼らを実によって見分けることになる』

『人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。・・・わたしにとどまりなさい。わたしの言葉にとどまりなさい。わたしの愛にとどまりなさい。』（ヨハネの福音書 15：5節、7節、9節）

【キリストにとどまる】キリストによって救われた私たちだから、生きていくのもキリストによって生きる、ということ。信仰の言葉にはハッキリした内容がある。

15-23節の言葉全体は、ニセ預言者たちを見分けるために必要な教えだけではない。「主よ、主よ」と言う者、つまり、すべてのキリスト者が問題になっている。

『天におられる父のみこころを行う』この言葉に私たちはいつでも帰って来る。これを自問しながら自分自身を点検する大切さを忘れてしまったならば、ニセ預言者が見えなくなるとイエス様は言われる。

『わたしはおまえたちを全く知らない。不法を行う者たち、わたしから離れて行け。』しかし実際に退けられたのは、ニセ預言者たちではなく、十字架の主イエス様だった。

『キリストから離れてはいけない。恵みから落ちるな…』（ガラテヤ 3:1、5:4）。